

公共喫煙所をめぐる 「あっぱれ」と「喝」

加藤一晴(61歳)
医師

人口約30万人を擁する盛岡市の玄関口、盛岡駅周辺の喫煙所2カ所が11月4日、撤去された。

盛岡駅は東北新幹線をはじめ、複数の在来線が走る東北地方でも有数の駅舎であり、1日平均約1万8000人が乗車している。

そこに喫煙所が設置されていたが、たばこポイ捨ての温床であり、せつかくの景観を損ねていた。

喫煙行為とは、
三つの迷惑行為
(煙・灰・フィルター)である。

オープンスペースの喫煙所で解決できるのはフィルターのみで、大気中に拡散する煙や、先端から燃え落ちる灰は対応できない。

「岩手禁煙推進ネットワーク」という熱心なボランティア団体がある。2013年から駅前で吸い殻拾いや、受動喫煙に関する有害性情報をアピールしてきた。

そうした活動もあって、地元住民の理解が得られ、世論喚起につながり、盛岡市政も「喫煙所撤去」というアクションを起こしたのだろう。

青森や岩手などは全国的にも喫煙率が高い。それだけに東北地方では「あっぱれ」と称賛されるだろう。

一方、静岡県最西端の湖西市には、風光明媚な「潮見坂」という坂がある。

明治元年(1868年)に、明治天皇が江戸(東京)への行幸の途中、この坂上で休憩されたとされている。眼下に見える白浜と押し寄

せる青波が見事だ。

しかし、今年の夏、この道の駅に仕切りで囲まれた喫煙スペースが設けられた。

この喫煙スペースを利用するのは、隣接する浜名バイパスの通行者や観光客が多いのだろう。

メンテナンスは、湖西市がやり、便宜を図る相手の多くは湖西市以外の観光客らなのである。

隣接する愛知県豊橋市や静岡県浜松市は、受動喫煙対策として、公共施設などの喫煙スペースを撤去するようにしている。また現在、喫煙所設置は受動喫煙対策にはならないことも知られている。

今回の喫煙スペース設置は、時代的に日本中から「喝」と言われても仕方がないのではないだろうか。

